

# 宇和島の祭り

1年2組	城下 華凜	1年2組	二宮麻佑花
1年3組	木原 里菜	1年4組	大根 怜香
指導者	教諭 井上 真介	教諭	中川 彩矢
		教諭	水谷真砂美

## 1 課題設定の理由

宇和島の祭りについて興味が湧き、その中でも特に身近な和霊大祭と八ツ鹿踊りについて調べたいと思い、この課題を設定した。

## 2 仮説

和霊大祭については「霊を和ませる」と書くため、何かよくないことが起こって供養のために行われ始めたのではないかと考えた。

八ツ鹿については伊達家に関連する貴重な文化財として、宇和津彦神社の関係者が受け継いでいるのではないかと考えた。

## 3 調査方法

- (1) 文献調査
- (2) 聞き取り調査

## 4 結果と考察

### (1) 和霊大祭

1615年に伊達秀宗が宇和島藩の藩主となると同時に、山家清兵衛が家老として秀宗に仕え、民政財政を担当した。清兵衛は借金の返済や大阪城の石垣改修などにより圧迫していた財政を藩士の減給により和らげ成果を上げたが、藩士たちからの反感を買った。特に不満を抱いていた桜田玄蕃らが秀宗に偽の告げ口をし、それを信じた秀宗が上意討ちを命じた。清兵衛の死後、殺害に関係した者が謎の変死を遂げたり、異常気象が起こったりするなど、清兵衛の祟りとされる出来事が起こった。見かねた宇和島藩が現在の和霊神社の原型であるみこたま神社を創建、のちに正式な神社となり、和霊神社に改めた。このことから、清兵衛の祟りをもとに創建されたと考えがちだが、当時の一般市民たちが清兵衛の功績を讃えて創建したとも考えられるのではないだろうか。藩士たちからは不評であった政策だが、一般市民の生活は楽になり、尊敬された。また、優しい人柄であったという記述もある。柔和な性格で市民のために尽力した清兵衛への追悼の意も含まれ、「和という字があてられたのではないかと考えた。

## (2) 八ツ鹿踊り

史実に基づいた、年表を下記に提示する。

年号	できごと
1615	・伊達秀宗が仙台藩から宇和島藩に入り、藩主となる。 この間に現在の八ツ鹿踊りの元となる踊りが伝来したと思われるが、五頭、七頭、八頭など諸説ある。
1646	・秀宗に許可され八ツ鹿(数は諸説あるため不確か)が伊達家の氏神である宇和津彦神社の練り物として行われ始める。 1849年の時点ではすでに五ツ鹿であったことが宇和津彦神社祭礼絵巻から分かる。また五ツ鹿の面に「安政四丁巳六月当町森田屋磯右衛門源吉晶作」とあることから、1857年の時点では五ツ鹿であったと分かる。
1922	・昭和天皇の台覧に伴い、面と装束を新調、八ツ鹿に戻る
現在	・裡町一丁目が伝承・保存

以上が大まかな出来事である。開始当初の八ツ鹿踊りは秀宗(つまり宇和島藩)のお墨付きの人たちだけが行うことを許可されていたので、伝承していたのは宇和島藩お抱えの芸能を担う集団だったと考えられる。

宇和津彦神社の練り物として許可されてからも、宇和島城内で八ツ鹿踊りは行われていたので、秀宗らに見せるために行った芸能団体と、祭礼行事として行うための団体が別に作られて伝承されていたと考えられる。

現在では裡町1丁目の人たちが伝承しているが、昔は1～5丁目すべてが八ツ鹿踊りを行い、伝承していた。しかし、別の練り物を始める、人手不足により伝承されなくなるなどして、1丁目のみが残った。(保存は八ツ鹿保存会、市の教育委員会、宇和津彦神社などが関わる)

以上のことから、八ツ鹿の保存・伝承は神社関係者だけでなく、多くの人によって行われていたと考えられる。

## 5 まとめと今後の課題

宇和島の祭りで最も有名な祭りである和霊大祭と八ツ鹿踊りが二つとも伊達家と大きく関連していたことが分かった。宇和島以外の地域でも伊達家と関連した祭りがあるとすればそれについても調査したい。

## 6 参考文献および参考サイト

『攘夷などと無謀なことを』

『兎 もう一つの伊達騒動』

『季刊 えひめ第6号』

『宇和島市教育委員会 八ツ鹿踊り』

<http://www.city.uwajima.ehime.jp/www/contents/1287559142976/>

## 7 訪問先

和霊神社 宇和津彦神社